

石巻日日新聞

石巻日日新聞社
〒986-0874
石巻市双葉町8番17号
電話 0225-95-5231
ファクス 0225-94-4720
郵便振替口座 02240-3-4424
◎石巻日日新聞社 2017

Hibi-net
http://www.hibishinbun.com
info@hibishinbun.com

注文住所 販売住所 リフォーム工事 ●
石巻地元工業店同組合加入事業所
石巻市双葉町1丁目13-15
TEL 0225-95-5231 FAX 0225-94-4720

株 宮崎建設

〒986-0874 石巻市双葉町8番17号
TEL 0225-95-5231 FAX 0225-94-4720

土木作業員

http://my.sakikensetsu.jp

門脇のコミュニティ再生を追う

青池憲司監督 映画「まだ見ぬまちへ」完成

震災後の石巻市門脇地区のコミュニティ再生を追ったドキュメンタリー映画「まだ見ぬまちへ」石巻・小笠原コミュニティの物語がこのほど完成した。映画監督、青池憲司さん(76)東京都在住が震災後の石巻を題材に撮影した3作品で、来年3月以降に全国で順次公開される。震災を機に石巻と縁を結んだ青池監督は「門脇の映画」としてだけでなく、普遍的なコミュニティの在りようを見てもらえるはず」と作品への思いを語る。先日、石巻市内で初の上映会が行われ、関わった人たちが地元の映画ファンと一緒に鑑賞した。

地域と人々3年半の記録

青池監督は「コミュニティ再生に関するドキュメンタリー作品を多く手掛ける。平成23年6月に初めて石巻で撮影を開始し、24年に門脇

これらの撮影を通して交流を持った門脇地区の人々を取材対象としたのが本作。「震災に関する報道も減る時期に、人々がどんな表情でどんな言葉を発したかを残すのも記録映像屋の仕事」と話す。ロケは前作の上映会

動を一通り終えた26年3月から始め、今年8月まで月に1度のペースで計38回約150日にわたりに行った。「当初はまちづくりの映画を作っているつもりはなく、日々の暮らしを撮ることが第一義だった」という。実際に作品は住民主体の健康教室や町内会の会合、祭りなどありあれた情景が主体。人々の軋轢(あつれき)やマイナミツクな展開はない。「これで映画になる



来春 全国で順次公開

もの作りがなくなっただけ振返る。しかし、こうして日常の真顔や顔ぶれ人々が語る言葉も、復興事業の経過とともに思った。ただ、美談的な

少しずつ変わる。一見しただけではわからない変化をすくいと、作品に反映させた。こうした機微は震災後、途切れず石巻と関わり続けながらこそ見出せるもの。撮影対象と地続きの生活者としての感覚で撮影に当たった。震災が僕自身の親近感を持つと心がけたのだという。

「付き合いが続くほどに気がなってきた」と笑う青池監督もまた、地域の人々とともにまだ見ぬまちへ向かっていく。(阿部達人)

作品の後も続く地域

前作は製作委員会形式で作られたが、今回は自主製作。そして今年3月には在京の石巻出身者が中心となり、いしのみまき・記録映画づくりを応援する会(加藤友成代表が設立)イベントやインターネットを通して、青池監督もまた、地域の人々とともにまだ見ぬまちへ向かっていく。(阿部達人)

韓国で協定締結 魅了アピール 東日本初「宮城オルレ」 奥松島コース来春

奥松島コース来春

県は21日、トレッキンク「オルレ」認定機関であり、これで東松島市の宮戸地区が「宮城」と協定を結んだ。国内

第2戦VS市原 1-1で再びPK勝ち

昇格権を争っている。コバルトは前日の初戦で、九州王者のテゲバジャーロ宮崎に

躍したラジナル人FWのレナチーニョ。カウ度も決定権を生み出したが互いに追加点は生

い